

こころ医療福祉専門学校佐世保校
令和4年度第1回教育課程編成委員会議事録

1 日時 令和4年9月25日（日）10:50～11:40

2 場所 こころ医療福祉専門学校佐世保校 3階 柔道場

3 委員 出席：田中秀樹（長崎県柔道整復師会）
上田陽介（純心整骨院）
小柳翔生（こやなぎ鍼灸整骨院）
藤原善行、舘川大輔、森山麗央

4 主な内容

(1) 開会のことば（司会 舘川大輔）

本会の開会目的及び配付資料の確認を行う。

(2) 令和3年度の提案への回答

ア 広告について

（舘川）外壁に垂れ幕看板を設置した。追加の看板も設置予定である。

イ リモート授業について

（舘川）非常勤講師もリモート授業に慣れ、学生からも理解しやすくなったと声があがっている。しかし、リモート授業の長期化により学生の学習意欲の低下が見られるようになった。その結果、非常勤講師の学生に対する評価が甘くなったように見受けられる。

（田中）試験が簡単になったのか。

（舘川）これまでと同様であるが、出題範囲を明確にした結果だと考える。

ウ 卒業生のスピーチについて

（舘川）コロナ禍のため実行できていない。しかし、数名の卒業生を呼ぶことは決定している。

エ 学生募集について

（舘川）今年度は高校生向けのガイダンスが平年並みに戻っている。

オ 勉強方法について

（舘川）3年生に対してチーム化について話を行った。取り入れているグループも見受けられる。成果は年度終わりにならないと評価できないが、次年度に活かしていきたい。

カ 社会人募集について

（舘川）垂れ幕看板や教育訓練給付金ポスターを掲示した。映画館でのCMを社会人向けに切り替える予定である。

キ ボランティア活動について

(舘川) 徐々に参加し始めた。今後は、高校生の部活動にアプローチしていく。

(小柳) トレーナー活動は、高校の部活動か高総体か。また、教員が参加するのか、学生も帯同するのか。

(舘川) 検討段階であるが、活動にあたり 2 つの狙いがある。①柔道整復師の認知度を高めること。②定期的な活動によって、トレーナーを希望する学生に将来像をイメージさせることが可能となる。また、入学後も授業の一環としてトレーナー活動を行うことで学生満足度も高めることができる。高総体に帯同しない理由として、ブースを開いて選手が施術を受けても認知度向上にはつながらないからである。

(上田) 高校側から依頼はかかるのか。

(舘川) 現状では依頼はない。

(上田) 高校側にアポを取るということか。

(舘川) そうである。今後、公募の方法も検討していく。

(田中) 佐世保整骨院に企業見学の依頼はできるのか。

(舘川) 可能である。

(藤原) 高校は総合学習の時間に進路学習の一環で、学校訪問による職業体験を実施しており、本校にも依頼がかかる。また、高総体終了後に進路面談を行うため、学生の進路に対する意識がない。そのため高総体に参加しても興味を持つ学生が少ないと考えられる。

(3) 令和 4 年度の取り組みについて報告および質疑応答

ア 第 30 回柔道整復師国家試験合格者について

(舘川) 全国は 3125 名受験し 2531 名が合格。 (81.0%)

佐世保校は 11 名受験し 8 名が合格。 (72.7%)

長崎校は 12 名受験し 10 名が合格。 (83.3%)

イ 就職状況について

(舘川) 卒業生 11 名中 11 名全員が就職している。

ウ 入学者について

(舘川) 令和 4 年度の入学者は定員 30 名に対して、20 名が入学した。令和 5 年度入学予定者の現状として社会人の割合が高く、高校生の動向が不安定である。オープンキャンパスやガイダンス等に関わる際に、柔道整復師の魅力や将来像について伝えたいため、何か意見をいただきたい。

(田中) 卒業生の中で、高校時代部活動で活躍していた学生がガイダンスに参加したことはあるのか。

(舘川) ない。

(田中) 高校では卒業生が母校に来校し在校生に講話することがある。成功事例や体験事例は身近に感じることができ、有効的だと考える。

ガイダンスに参加するのは教職員のみか。

(館川) そうである。職員で長崎校の卒業生である森山をガイダンスに参加させている。柔道整復師についてよりアピールできるよう事前打ち合わせを行っていく。

(上田) 田中先生と同意見である。高い意識を持ち将来像が明確になると、モチベーションも高まるため、現場に出ている先生が話すことが良い影響につながるのではないだろうか。

(小柳) 高校生は、柔道整復師は体に携わる仕事であるとイメージは持っているが、理学療法士との違いやメリットが曖昧なことが多い。トレーナー活動や開業についてもイメージすることで、理学療法士と検討している学生を引き込むことができると考える。

(田中) ガイダンスでインスタグラムの登録をお願いしているのか。

(森山) お願いしている。

(田中) 伝えるだけでは登録する学生は少ないと思う。

(館川) 登録特典や声かけに対してのフォロー率の集計を検討する。

エ 臨床実習について

(館川) 昨年度はコロナウイルスの影響により外部実習を中止し、令和4年2月21日から2月28日の間で内部実習を実施した。今年度は以下の日程で90時間の外部実習を予定している。

・令和4年 8月31日～9月10日

12月19日～12月24日

・令和5年 2月20日～3月11日

また、カリキュラムの変更により外部実習の時間が増えた。各学年で実施しているが、外部実習は2年次に2回実施している。1年次と3年次の内部実習の実技内容について提案をいただきたい。

(田中) 現状何を実施しているのか。

(館川) 1年次は外部実習へ行くための練習や、マッサージや電気の練習を実施している。3年次は骨折や脱臼の整復法、固定法を実施している。

(小柳) 現場で働く中で軟部損傷の患者が多いため、実際に多い症例に対して、教員がお題を出し学生に考えさせ、教員自身の治療法を伝授していくと、学生が現場に出た際に役立つのではないかと。

(館川) 問診からスタートするということか。

(小柳) そうである。

(館川) 役割を決めて患者には病人になってもらい、施術者は問診から始め、手技や治療法のロールプレイングを実施するということか。

(小柳) そうである。

(田中) ロールプレイングは回数を重ねることで確実に身につくと思う。ただし、問診のロールプレイングは大変だと思う。

(館川) 実施にあたり、事前にマニュアルを作成する必要がでてくる。

対象疾患は軟部損傷がよいのか。

(小柳) 実践に近いのは軟部損傷だと考える。

(田中) 頸部・腰部の捻挫は現場でも多く、経験を重ねても難しい。問診票の作り方や見方を取り入れるのも効果的だと考える。

(舘川) 承知した。

(田中) 1年次に5Sの指導を取り入れたらどうか。

(舘川) 整骨院によって違いはあるが、教員が実習先の整骨院を訪問し、マニュアルを作成し学生に配付することで、実習に対する不安は解消できると思う。

(田中) 事前に対象の整骨院について学ぶことで、先生の指示だけではなく自ら考えて行動することが可能になると思う。

(舘川) 内部実習の内容について、検討し、実行していきたい。

オ 新型コロナウイルス感染症対策について

(舘川) (ア) 非常勤講師の授業を原則リモート授業として実施。

(イ) 学生及び教職員は毎朝検温し、記録用紙に記入。

(ウ) 教室、職員室等の換気と除菌を日に3回実施。

(エ) 学生及び教職員は県外移動を自粛中。

カ 令和4年度認定実技について(10月29日)

(舘川) 今年度は例年通りの実技審査(令和2年・3年度は口頭試問)が執り行われる。柔道実技審査の一部は省略される。

キ 臨床実習指導者講習会について

(舘川) 11月に長崎校と合同で開催予定。

ク 合同就職説明会について

(舘川) 8月7日に県内企業を中心とした企業説明会を長崎校と合同で開催した。佐世保校から3名参加した。今冬に県外企業を対象にした説明会を開催予定。

(田中) 県外の希望者が多いのは求人数が多いからか。

(舘川) 県内求人数の低下もあるが、求人数が少ないから県外を検討しているわけではない。都市部にいきたい、県外に行きたい気持ちから就職先を検討することもあり、明確な意図があるわけではない。

ケ 今年度からの取り組みについて

(舘川) (ア) ベテラン教員2名の補充(2名退職し2名補充)

(イ) 3学年に補講の充実(3年生週に3回、2年生週に1回、1年生週に1回)

(ウ) 1・2年生に実力試験の施行(定期試験以外)

5 閉会のことば(司会 舘川大輔)

以上で本委員会を終了する。